



第198号

発行所 一般社団法人 芝蘭会 京都大学医学部同窓会 〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町 TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015 E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 退任あいさつ 芝蘭会臨時総会・評議員会・理事会 京大病院臨床懇話会
- ③ KMS・FUNDだより
- ④ 生命輝かそう芝蘭会 支部だより「愛媛」
- ⑤ 支部だより「高知」「滋賀」「島根」
- ⑥ 人事異動・会員計報

芝蘭会会長就任あいさつ

医学研究科長 岩井一宏
医学部長



の時代には、日本国内だけでなく世界で活躍できる医師の育成が不可欠であり、世界標準に合致した医学教育が求められています。そのためには見学型ではなく、医学部学生も可能な限り診療に参加する参加型の臨床実習が必須であり、芝蘭会会員の皆様には関係病院での学生の臨床実習などで多大なご協力を賜って

師の輩出だけではなく、世界をリードする医学研究者・医療人の育成、輩出に努めます。その実現のため、研究志向の高い学生を選択する推薦型の特色入試の導入、1回生から研究科に属する基礎系研究室で研究に従事するMD研究者育成プログラムなどの研究マインドを持った人材の輩出を目指したカリキュラムを設

本庶佑医学研究科名譽教授をはじめとして、数多くの世界的な医学研究者を輩出して参りました。医学研究における新たな展開に対応すべく、世界トップレベルのヒト生物学、医学の研究環境の確立を目指しております。近年ゲノムシーケン

構内に研究室を整備されており、ヒト生物学研究に不可欠な機器、人材が整備されつつあります。しかし、それだけでは世界トップレベルの医学研究の環境整備は十分ではなく、他の研究科の研究室の協力も不可欠でございます。

質疑応答、活発に

第19回京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会

3月19日、京都大学医学部附属病院（以下、京大病院）は、第19回京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会を芝蘭会館で開催しました。

同研究会は、京大病院での iPS 細胞、ES 細胞および体性幹細胞などを用いた再生医学研究の向上および成果の普及を図り、医療の発展に貢献することを目的として2009年11月に発足しました。

研究会では、稲垣暢也 引き続き、柴祐司 信州大学医学部再生医科学教室 バイオメディカル研究所教授が「多能性幹細胞を用いた心筋再生治療の開発」と題した特別講演を行いました。講演後の質疑応答では活発な議論が展開され、研究会は盛会のうちに終了しました。



特別講演を行う柴教授

研究会で開会挨拶を行う稲垣病院長

世界をリードする医療人輩出へ

人材育成、一層充実図る

芝蘭会員の先生方におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。昨年の10月1日より医学研究科長・医学部長を命ぜられその任にあたりておりますが、本年4月1日から上本伸二前会長の後任として芝蘭会会長を拝命いたしましたので、一言ご挨拶をさせていただきます。

市立大学、大阪大学で生化学・細胞生物学の研究、教育に携わってまいりましたが、平成24年から京都大学で細胞機能制御学分野（生理学第二）を担当し現在に至っております。

5月1日に新天皇が即位され、新元号、令和の時代が始まりました。医学・医療を取り巻く環境も激変しつつありますが、京都大学医学研究科は新時代においても「良質な医師だけではなく、世界をリードする医学研究者・医療人の育成、輩出」とのミッションを果たすことが出来る様に時代に即した体制作りを進めてまいります。

加えて、貴重なヒトサンプルにアクセス可能な臨床研究に対応できるシステム作りも不可欠です。京大病院では臨床総合研究センター (ACCT) に加え、AMEDなどから資金を得てバイオバンク、ゲノムデータベ

また、他大学におりまして、出身大学の同窓会のありがたさがよく感じられます。若手の同窓生の先生方も芝蘭会の活動に積極的に参画いただき、大学と芝蘭会の発展に協力くださいますようお願い申し上げます。

平成5年から米国立衛生研究所 (NIH) に留学の後、免疫細胞生物学分野（湊長博教授）に帰学いたしました。その後、平成13年から大阪

まず教育面ですが、「良質な臨床医の育成」は日本中の医学部に課されている課題で京都大学も例外ではございません。現代のグローバル化

加えて、人間健康科学専攻の大学院改革に合わせ、医学研究科の大学院教育も大幅な改編を進め、学部、大学院一体となった研究者の育成プログラムを計画する

加えて、重要なヒトサンプルにアクセス可能な臨床研究に対応できるシステム作りも不可欠です。京大病院では臨床総合研究センター (ACCT) に加え、AMEDなどから資金を得てバイオバンク、ゲノムデータベ

また、他大学におりまして、出身大学の同窓会のありがたさがよく感じられます。若手の同窓生の先生方も芝蘭会の活動に積極的に参画いただき、大学と芝蘭会の発展に協力くださいますようお願い申し上げます。

京都学派と社会疫学の繋がり



社会健康医学系専攻
国際保健学教授

木原 正博

私は、昭和48年に京都学派と哲学と山岳隊に強く憧れて京都大学医学部に入学しました。学生運動で荒廃したキャンパスに失望し、卒業後に京都を離れました。その後、高血圧の基礎研究、米国留学、厚労省勤務などの曲折を経て、某地方がんセンターの研究員として喫煙関連がんの分子疫学とエイズ疫学研究に従事していたときに、思いがけずも声をかけていただき、我が国初の公衆衛生大学院として創設された社会健康医学系専攻に、国際保健学講座の初代教授として迎えていただく幸運に恵まれたのです。

教室名はGlobal Health and Socio-epidemiology (社会疫学分野)としました。Socio-epidemiology (社会疫学)とは、エイズ予防研究に取り組み過程で准教授(木原雅子)とともに独自に創り上げた予防学統合的アプローチで、プラグマティズムを哲学基盤とし、疫学的手法に質的研究や社会科学的方法論を統合し、フィールドとの深い交わりの中で「現実世界」の包括的理解とそれに基づく現実的解決法の開発を目指す学際的アプローチです。フィールド研究と学際性はかつての「京都学派」に通じるものであり、

私たちは、その手ごたえを感じながら、社会疫学を理論化し、同時に「京都学派」の系譜を受け継ぐ研究者たち(文人人類学者、地域研究研究者)との繋がりを深めていきました。幸い、私たちのアプローチは、国際的にも評価され、2006年には国連合同エイズ計画の共同研究センターに指定され、その影響で多くの留學生(22カ国33名)が集まることとなり、また、社会疫学は、初回(2015年)のKyoto University x TEDトークのテーマにも選ばれ世界に発信されました。

この19年間、研究では、エイズ研究を推進し、国内では独自の若者の予防モデルを開発して顕著な実績をあげ、国外では、アジア、アフリカ、中近東の20以上の国々で研究

臨床免疫学の研究診療拠点をめざした18年



医療法人 仁仁会
武田総合病院院長

三森 経世

2000年10月より18年間に渡り、医学研究科臨床免疫学分野の初代教授および医学部附属病院免疫・膠原病内科の診療科長として奉職してまいりましたが、3月31日をもって無事定年を迎え、退任にあたり芝蘭会の皆様に御礼とご挨拶を申し上げます。

私は1978年に慶應義塾大学医学部を卒業後、大学院医学研究科博士課程、米国Yale大学への3年間の留学を経て、京大へ異動するまで15年間慶大内科リウマチ研究室で膠原病・リウマチ学の研究と臨床に従事しました。私

が京都に着任した2000年前後は、ちょうど関節リウマチの新たな治療薬として特定の病態形成分子をピンポイントで抑える生物学的製剤の臨床試験が国内外で開始された時期に当たります。

それから約10年間に様々な新規薬剤が開発されて臨床での応用が可能となったことは、リウマチの治療戦略を二変させ、それまで極めて難治性の疾患であった関節リウマチが治療しうる疾患との認識を定着させました。まさにこのような時期に教室が設置されたことは、当科の発展にとっても

研究面では、従来から行ってきた膠原病患者の自己抗体研究をはじめとして、ゲノム医学センターとの共同研究である自己免疫疾患・リウマチ性疾患の全ゲノム解析(GWAS)研究、GWASで得られた新規疾患関連遺伝子の機能解析と動物モデルを用いた疾患との関連性の研究、関節リウマチのKURAMAコホートを利用した臨床研究などを遂行してきました。中でも自己抗体研究は私のライフワークとも言えるもので、これまでに種々の新たな自己抗体を発見してその対応抗原を同定し、臨床的意義を解明して、一部は臨床応用へとこぎつけることができました。

我が国では膠原病・リウマチ性疾患に特化した講座を有する医学部・医科大学は少な

く、特に西日本ではこの領域の専門医の育成が十分とはいえず、地域の基幹病院といえどもリウマチ膠原病内科を診療科に持つ病院は少ないのが現状です。この18年間で京大病院の免疫・膠原病内科は我が国で数々の診療研究拠点に発展したと自負しています。しかし、まだまだ必要とされる近畿圏の関連病院からの常勤医派遣依頼には必ずしも十分にはお応えできなかったことが、私の唯の心残りです。今後とも多くの人材のリクルートとリウマチ膠原病専門医の育成とともに、過疎地域の診療拠点形成を次世代に託したいと思

います。

芝蘭会の皆様には在職18年半にわたるご厚誼に深謝いたします。今後は仁仁会武田総合病院院長として地域医療の充実にも努める所存ですので、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

がん、周産期医療テーマに

京大病院臨床懇話会 学内外から130人

京大病院臨床懇話会 学内外から130名の参加がありました。同懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍している医師等の先生方と医学部附属病院診療科長等との意見交換及び医学部附属病院からの情報提供の場として開催して



病院長挨拶を行う 稲垣暢也
京都大学医学部附属病院病院長(当時)



出席者代表挨拶を行う
笠原吉孝かさはら医院院長

会滋賀支部長から挨拶があり、続いて滝田順子小児科長・教授から新任の挨拶・講演がありました。その後、「未来を拓く京大病院」最新のがん治療を全体テーマに、紀田貢紀田クリニック院長の座長のもと、小笹裕晃呼吸器内科特定病院助教から「肺がんにおける免疫療法の現状と課題」を、金井雅史腫瘍内科特定准教授から「日常診療におけるがんゲノム医療の実践」、中本裕士放射線診断科准教授から「Theranostics」時代の画像診断―神経内分泌腫瘍および前立腺癌を中心とした」と題して、最新のがん治療について講演がありました。

続いて、近藤祥司地域ネットワーク医療部准教授から「紹介状システム

の導入について」報告がありました。

最後のプログラムで、万代昌紀産科婦人科長・教授の座長のもと、「周産期医療をめぐる地域連携」をテーマに、千草義継(産科婦人科助教)から「緊密な地域連携によって母児を守る」、河井昌彦小児科(新生児集中治療部)病院長から、「京大病院NICUにおける地域医療連携の現状と今後の課題」、池田義心臓血管外科准教授から、「京大病院における

新生児期心臓・大血管手術症例の検討」、山川孔日本バプテスト病院NICU・小児科部長から、「京都府の周産期地域医療における日本バプテスト病院の役割」について講演があり、周産期医療の最新線を知る機会となりました。

また、引き続き開催された懇話会においても、医学部附属病院の診療科長と出席いただいた地域医療機関の先生方との活発な意見交換が行われ、大変有意義なものとなりました。

なお、昨年度に引き続き、先生方の講演を動画撮影し、Web上で公開する予定です。

事業計画など承認

芝蘭会臨時総会・評議員会・理事会

平成31年3月16日(土) 芝蘭会館別館に於いて芝蘭会臨時総会・評議員会および理事会が開催されました。

議案は、(1)2019年度事業計画及び収支予算について、(2)理事の選任について、(3)会長、副会長及び常務理事の選任について、(4)その他の事項について、(5)芝蘭会臨時総会・評議員会および理事会が開催されたことについて説明があり、原案どおり承認された。議案(2)については、稲垣暢也理事の辞任による後任の理事に宮本享氏を平成31年3月16日付で選任することが承認された。また、理事の山岡義生氏、中安 顯氏は2019年6月で任期満了(4期)となるため、次回の総会において選挙により、後任者を選任すること、異議なく承認された。議案(3)については、稲垣暢也副会長の平成31年3月16日付辞任により、総会において

議の後は、客室の稼働率向上や宿泊収入増、また、医学部附属病院の拠点病院としての活動に寄与するということで異議なく承認された。

議案の審議終了後、4件の報告があり、1件目は、山田事務局長より芝蘭会の会員数及び会費の納入状況等について報告が行われた。2件目は上本会長より京大病院学術研究支援基金の募金状況について報告が行われた。3件目は、山田事務局長より京大病院小児入院患者家族の芝蘭会館別館の客室利用状況について報告が行われた。4件目は、上本会長より本庶佑先生ノーベル生理学・医学賞のお祝い会について、5月21日(火)、ザ・リッツ・カールトン京都にて開催予定の旨の報告が行われた。

掲載先(URL)は、京都大学OCW
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/hospital> です



芝蘭会臨時総会・評議員会・理事会

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学研究科事務部
総務企画課企画広報掛
Tel.075-753-4695
075-753-4322
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

学生支援の新事業立ち上げへ

KMS・FUND 委員会委員長
放射線腫瘍学・画像応用治療学 教授

溝脇 尚志



基金創設によって、学生の御両親、御家族や同窓生である芝蘭会員並びに教職員が、京都大学医学部における学生の学習・研究環境整備に貢献できる仕組みが整いました。

令和元年度の京都大学医学部教育研究支援基金(KMS・FUND) 委員会の委員長を拝命いたしました放射線腫瘍学・画像応用治療学の溝脇尚志でございます。本年度より本委員会に参加させていただきます。

今年度は元号も改まり、さらなる発展に向けた新たなスタートを切る事ができますよう、委員(別表参照)一同ともども鋭意努力させていただきます。存でございます。

令和元年
教育研究支援基金(KMS-FUND) 委員会委員

委員長	溝脇 尚志	放射線腫瘍学・画像応用治療学	教授
委員	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	教授
委員	伊達 洋至	呼吸器外科学	教授
委員	斎藤 通紀	機能微細形態学	教授
委員	山田 重人	人間健康科学系専攻理学療法学	教授
委員	古川 壽亮	健康増進・行動学	教授
委員	陣上 久人	大学院教育コース	教授
委員	山田 均	芝蘭会事務局長	
委員	廣瀬 幸司	医学研究科事務部長	

やわらかな日ざしに春の訪れを感じる季節となりました。本日は先生方をはじめ、たくさんのご来賓の方々、ならびに保護者の皆様のご臨席の下、このような盛大な会を開催して頂き、誠にありがとうございます。卒業生を代表し、厚く御礼申し上げます。



卒業生代表あいさつ 医療への貢献、自問自答 高岡 沙織

思い起こせば6年前、私達は京都大学医学部医学科という新しい環境へこの期待と不安を胸に、この場所へ入学祝賀会に臨み、共通のキャリアを履修し、歩んできた大学生活は当然ひとりひとり違うものであり、その中で私は何を学

んだり得たりしたのかと振り返った時、三つの事が頭に浮かびました。一つ目は、医学を究め医療に従事する者としての心構えです。医師国家試験に合格するための勉強だけでなく、最先端の研究環境・医療現場に

このように、KMS・FUNDは、学生の生活・勉学を広くサポートする施設や援助と京都大学ならでの研究に携わる学生へのサポートの両輪で事業を進めてまいりました。お陰様で、現在までの累計基金総額は5億円を超えました(寄付者数2364名)。皆御願ひ申し上げます。

この度は、平成29年度のKMYIAを受賞させていただき、誠にありがとうございます。この受賞はこれまで厳しく、ご指導下さいました斎藤通紀教授をはじめ、機能微

御指導をお願いする場面も多々ございます。学生にとっては第一線の市中病院で学ぶことができる貴重な機会でございますが、京都大学の関連病院は、東は静岡から西は福岡まで広範囲にわたっており、学生の交通費や宿泊費の負担は軽くないため、本助成を行うこととさせていただいた次第です。

三つ目は、年を重ねる毎に実感する家族への感謝です。私が6年間、健康で学問を修められたのも、ひとえに、精神的にまた経済的に支えてくれた家族のお陰です。度重なる家族からの連絡を時

この度は、平成29年度のKMYIAを受賞させていただき、誠にありがとうございます。この受賞はこれまで厳しく、ご指導下さいました斎藤通紀教授をはじめ、機能微

くれ、帰る時には御土産でカバンはいっぱいでした。そして今年6年の年月を経て、研修医として、また大学院生として自立への一歩を踏み出すに当たり、少しずつ家族に恩返しをしていきたいと気持ちを新たにしています。

この度は、平成29年度のKMYIAを受賞させていただき、誠にありがとうございます。この受賞はこれまで厳しく、ご指導下さいました斎藤通紀教授をはじめ、機能微

細形態学の皆さま、お世話になりました先生方のお陰でありまして、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

**第12回京都大学医学部校友会
総会・講演会のお知らせ**

日時
2019(令和元)年
10月19日(土)午後1時より

場所
芝蘭会館本館 稲盛ホール、山内ホール

特別講演会
講演会終了後、懇親会パーティー
申し込み受け付けはおつて連絡します。

最後にになりましたが、京都大学医学部ならびに校友会がこれからも素晴らしい歴史を歩んで行かれる事を祈念申し上げます。

末筆ではございますが、京都大学医学部教育研究支援基金KMS・FUNDに御寄附いただいた数多くの方々には深く感謝いたします。今回の受賞を励みに今後も医学と京都大学の発展のために精進して参ります。この度は誠にありがとうございました。

私の受賞論文は精子・卵子の元となる始原生殖細胞(PGC)の雌雄決定機構の解明とその応用に関するものです。このPGCは胎児における生殖細胞の起源であり、実は雌雄が染色体により決まっているわけではなく、Y染色体の有無により出来上がった結果、卵巣との相互作用により初めてPGCは雌雄の自我を確立します。しかし、この相互作用の実体は明らかになっておりません。今回私は斎藤通紀教授の指導の下、多能性幹細胞を用いた多能性幹細胞からPGCの誘導を試験管

総会

2019年度京都大学医学部若手研究者優秀論文賞
KMYIA 受賞者

坂井義治教授の特別講演があった愛媛支部総会



AIの医療への活用など紹介

【愛媛】 平成30年9月8日(土)、いよてふ会館3階アイビスホールにて平成30年度京都大学医学部芝蘭会愛媛支部総会ならびに講演会が開催されました。

はじめに支部総会が行われ、愛媛支部の現状についての報告がありました。続いて、京都大学大学院医学研究科消化管外科学教授でいらっしゃる坂井義治先生による特別講演「おしりから見える未来の医療」が行われました。

講演ではまず、京都大学医学部附属病院の近況報告がなされました。当病院のがんゲノム医療中核拠点病院指定と、株式会社KBBMの二つについて簡単に報告させていただきます。

まず二つ目の当病院のがんゲノム医療中核拠点病院指定について、中核拠点病院とは、国民が全国各地どこにいてもがんゲノム医療を受けられることを目標とした、がんゲノム医療の高度な医療を有する医療機関として必要な諸機能を有することを要件として指定された病院のことです。指定により、京都大学医学部附属病院に

おいて、質の高いゲノム検査や治験の実施、人材育成など未来のゲノム医療にむけた取り組みがなされるようになります。

次に二つ目の株式会社KBBMの設立について。KBBMは、京都大学と企業が連携して新たな産学連携モデルとして、革新的医療開発への貢献を目指し設立されました。KBBMがバイオリソニス事業を支援し、生体試料提供を得て、医療開発につなげるというサイクルにより、効率的な研究開発が可能となります。特別講演では次に、「お

しりから見える未来の医療」と題した講演が行われました。

先生の専門分野の最近の技術革新や、今日話題となっているAIの医療への応用の二つを主に報告させていただきます。

まず、先生の専門である大腸がんと直腸がんにおける技術革新について伺いました。直腸がんの外科手術において、がん部位が肛門近くの場合、肛門を温存しないMiles手術が一般的でしたが、今日では、がん組織が括約筋に浸潤していなければ肛門を温存することが可能

になってきました。肛門を温存できるか否かは、患者の術後のQOLに大きくかわります。さらにICG蛍光ナビゲーション手術というものがあって、AIの進化が、より正確に行うことができるようになっています。ICGは蛍光物質で、血管系の走行の把握による腸管切断部位の決定やリンパ節の同定が、より正確に行うことができるようになっています。また3DCGも用いられて、意図した手術が最終的にうまく行くことができたのかを評価できるようになりました。

次に、AIを活用したこれからの医療のお話を伺いました。日本でも、皮膚がんの正診率において、専門医の診断率をAIのそれが上回るようになり、AIの進化は目覚ましいものです。外科手術においても、第1世代の開腹手術、第2世代の腹腔鏡手術、第3世代のロボット手術につづき、第4世代であるデジタル手術へと移行が進んでいます。AIのマシナリーニング、ディープラーニングによって、プラットフォーム上に蓄積された多数の患者のデータから今日の患者のデータに

し、そのデータに応じてロボットによるセミオート手術がそう遠くない未来に実現するかもしれないと思うと少し恐ろしい気持ちさえ覚えます。家庭内で日々デジタルセンサーによる多数の健康情報収集され、Google上の大量の患者のデータと照らし合わせることで、必要で精密な検査を勧めるといったシステムが可能になるかもしれないです。ただ、ロボットあるいはAI技術が進んでいく中、診療責任の所在をどうするかなど法整備を進めていく必要

がある、と先生はお話を締めくくられました。講演終了後は記念撮影のち懇親会が行われました。懇親会ではたくさん先生の先生が我々雑誌部員を温かくお迎え下さり、先生方の生活など、大変貴重なお話をたくさん伺うことができました。そして会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きいただきましたことに感謝いたしまして、愛媛支部総会の報告を終えさせていただきます。(文責：3回生 吉村大貴)

支部だより

この「生命輝かそう」というタイトルは以前から私が講演等でよく使用していたものである。例えば赤穂高校へ行く「生命輝かそう赤穂高校18歳」エイズと禁煙教育(人生100年時代を生き抜くために)、近くの老健では「生命輝かそうつじ庄80歳」癌と寝たきりにならないために(健康寿命あと10年)とか少し変えるだけで済み、IT音痴の私にとっては楽で抜き可能魔法の言葉となった。因みに「生命輝かそう大阪万博」はこれをパクった、とは企画に関わった友人医師からの内緒話

高年齢者は複数の慢性的疾患を長期に亘って抱え、病氣と共存している

高年齢者は複数の慢性的疾患を長期に亘って抱え、病氣と共存している

現在尾道市に合併の病院長だった山口昇先生である。介護保険生みの親の中心人物の一人である。我が国で生まれながらに英語に訳す時に私も関わらせていただいた。単純に訳せばComprehensiveだが我々はIntegratedにしてほしいと主張した。多

職種が多層的に編まれ、織り込まれたとする方が実態をよく表現しており、トップダウンの目線ではなくボトムアップの感覚が判る単語だったからである。医療と介護も同じ現場で共働することが多くなり、チーム医療とチーム介護が合流する

ドローム防止のための訪問リハビリ。そのための理学療法士や作業療法士などである。またコーデイナーとしてMSW(社会福祉士)やケースワーカー、そして下支えしてくれるホームヘルパーやバリアフリーの家屋改修に携わる方々である。色々な福祉用具を製造している業界も参入す

て以来の一大プロジェクトが着々と、雨々と進行している。人口構成と疾病構造の変化に対応するためである。病床機能報告制度を基にして病床を四つに分け、必要数を確保すると言いが削減する下心が衣の下の鎧がチラチラ、いつか脱衣(衣を脱ぎ捨てる)とみてい

イブに捉えている。四つの機能がありポストアキユート(急性期の手術などの後)、サブアキユート(家で転倒して骨折や施設で風邪をこじらせ肺炎など)の他に在宅復帰支援(飯、排泄、風呂、整容など)、その他(レスパイト、痛治療副作用、シャント後慣らし透析、糖尿病等教育入院)も割

一方の地域包括ケア病棟は公民、急慢を問わずに地域の医療を守る者となる筈である。以前、全日病(全日本病院協会)が唱えていた地域一般病棟の良いところ取りのようにも思えるが、慢性期が少し弱く急性期偏重の公的病院と急性期が弱かった主として民間の慢性期病院との丁度中間病床的

最後は人材である。介護分野の離職率はずっと高い。遣りがい感がない、夜間1人の少数勤務が多い、賃金など処遇が悪いなど多くの問題を抱えている。今回の外国人

縮めくられました。講演終了後は記念撮影のち懇親会が行われました。懇親会ではたくさん先生の先生が我々雑誌部員を温かくお迎え下さり、先生方の生活など、大変貴重なお話をたくさん伺うことができました。そして会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きいただきましたことに感謝いたしまして、愛媛支部総会の報告を終えさせていただきます。(文責：3回生 吉村大貴)



邊見 公雄

我が国は、団塊の世代(故郷屋太一氏の造語)が全て後期高齢者になる2025年に向け様々な施策を講じている。社会保障や医療・介護の分野がまず喫緊の急がれる所である。約5年前に19の法律を一度に改正する医療介護総合確保推進法が施行された。これだけ多くの法律改正が必要なほどの社会の変革、つまり人口構成が大きく変わるの

高齢少子化が進み人口減、支え手の生産年齢人口減に反して支えられる側の高齢者が激増する時代が差し迫っている。その事業のための基金が904億円予算化され、今は1千億円を超えている。

調されてきた。私は外科医なので手術や侵襲性の高い処置や検査は在宅では無理なので出番はない。あったとしても稀である。主役は口からの内服薬や食餌摂取などの訪問薬剤指導、訪問栄養指導、嚥下摂食指導。更には寝たきり防止、フレイルやロコモティブシン

医療費が高く財務省や経済財政諮問会議が批判的な急性期と社会的入院と揶揄される慢性期が多来、そこで幸せな人生を終えるということである。つまり住み慣れた所で「揺り籠から墓場まで」行えるのを可能にするこ

と使い勝手が良い。平成26年にこの病棟が誕生し、保険収載され施設基準や算定要件や点数が決まった時、瞬時にこれは田舎の病院を救うために作ってくれたと思っ

な役割で、激増している案も介護業界にはインパクトがあるだろう。私の知人はベトナムとフィリピンに日本向けの語学と制度・習慣などを教える専門学校を持ち、卒業生を自分が大阪や奈良で経営する複数の特養や老健などの施設に送り込んでいる。少子化の影響は医療界にもじわじわと及んで

和食人気が若手料理人の海外進出や外食産業の躍進、ファーストフードの普及などの影響で病院食の業界は人手不足、その結果病院から撤退。その病院は空港機内食の業者に緊急に助けを求めたというような事例も発生している。メディアからクレークもなかなか集まらない。ナースも今後は不足になる予想である。

計画やBCPを含む事業計画が必要時代が到来している。

よい医療・介護を効率的に地域住民と共に!!

生命輝かそう芝蘭会員の

生命輝かそう芝蘭会員の

地域医療・ケアの時代に

外科の再編と卒後教育、説明



上本伸二先生の講演が行われた高知支部総会

【高知】

平成30年9月5日(水)、三

翠園3階「やいろ鳥」にて平成30年度芝蘭会高知支部総会ならびに講演会が開催されました。

総会では、直前に行われた理事会の報告、入退会された会員の方々の報告の後、平成29年度の会計報告が行われ、終了となりました。

続いて、講演会が行われました。講演は、京都大学医学研究科科長・医学部長でいらっしゃる上本伸二先生による、「京大外科の再編と卒後教育」と題した講演でした。

講演に先立って、上本先生は京都大学の「医学研究科・医学部の現状」について、運営体制の変化や新しい病院や研究施設、校友会とKMSI、FUNDなどを中心とした明していただきました。

次に先生は「京大外科の再編と卒後教育」と題した講演を行われました。

先生はまず京都大学の

支部だより

先生はまず京都大学の

術をそれぞれ何回行っているか、などといった、学生にとって貴重な情報が公開されるようになったそうです。また、京都肝臓外科セミナーでの手術の映像を用いた若手外科医の勉強会などの効果もあり、関連病院で出来る手術の幅が年々広がってきているそうです。

次に、先生は自身が所属しておられる肝胆膵・移植外科の現状について説明してくださいました。発表論文数、海外留学数が増えているなかで、優秀な若手の外科医の方々を集めるために、春の進路相談や秋のキャリアサポートを行うという工夫をしておられるそうです。そうした取り組みを通じて、若手医師の成長を支援する中で、先生は彼らのニーズに応えるためには、地方病院の底力を上げることが必要だと強く感じられたそうです。

最後に、先生は今年度の京都大学からの各病院へのマッチング人数などを交えて、国際的な標準からみると日本で医師が不足しているという現状を説明されました。地域によって医師の数が大きな格差があることや、国からの援助の減少などによる医療崩壊の危機とその対策の必要性を強調し、講演

豪雨と防災情報わかりやすく



彦根地方気象台半場康哲先生の特別講演があった滋賀支部総会

【滋賀】

平成30年10月20日(土)、琵琶湖ホテルにて、平成30年度芝蘭会滋賀支部総会が開催されました。

座長として長尾昌壽先生、石川浩三先生により会を進行していただきました。はじめに、滋賀支部長である折田雄一先生より挨拶が行われ、折田先生、笠原先生のご挨拶は、お二方それぞれ今後の人生の成り行き

を締めくくられました。講演終了後には同会場にて懇親会が行われました。懇親会では、たくさんの先生方が我々雑誌部員にも話しかけて下さり、高知の医学の状況や、先生方の学生時代に関してなどの貴重な話をたくさん伺うことが出来ました。

も織り交ぜてお話しされ、非常に興味深いものでした。その後、京都大学大学院医学研究科眼科学分野の辻川明孝先生より大学報告が行われました。そして、大学報告の後に、彦根地方気象台観測予報管理官でいらっしゃる半場康哲先生より、「局地的な豪雨の発生と防災情報の利用」についての特別講演が行われました。

初めに、半場先生は彦根地方気象台についてのご説明をされました。桜の木やイチヨウの木などの植物が実際に彦根地方気象台に庭に植え込まれ、観測されているということなど、とても興味深いものでした。

次に、大雨と防災気象情報についてお話しをされました。半場先生は年々みだりに雨の傾向と今年の気象災害状況について細やかにご説明され、防災気象情報の重要性を

強調されました。また、防災気象情報の利用を呼びかけるとともに、改善された防災気象情報についてわかりやすくご解説されました。防災気象情報の改善については、危険度を色分けした時系列、警報級の現象による可能性の発表、危険度分布などのメッシュ情報の充実の3点を挙げられました。これらの特徴としては、これまで文字や数字のみで表されたものが、図や色分けなどの利用により一目でわかるように改善されたという点が、またスマートフォンなどのデバイスなどによって手軽に情報を取得できるようになったということなどがあげられました。

最後に半場先生は、再度、防災気象情報の重要性について強調され、例えば避難警報が発令された時、結果的に何もなかったとしても、その都度の避難を、実際に命の危険に及ぶ災害が起きた時のための訓練として行

脳ニューロン新生、興味深く



影山龍一郎教授の特別講演があった島根支部総会

【島根】

平成30年11月10日(土)、ホテルニューウェルシティ出雲にて、平成30年度芝蘭会島根支部総会が開催されました。

はじめに、幹事の並河徹先生の司会のもと、支部長である中川正久先生のご挨拶がありました。中川先生がおっしゃるにはかつての島根支部総会には会員数も多く、ご講演に当時医学部長を務

められていた本庶佑先生に来て頂いたり活気があったそうですが、ここ数年は人が著明に減少しているそうです。しかしそのような現状の中でも毎年少かさず島根支部総会を開催していきたい、と支部総会を大切に思っておられる気持ちが非常によく伝わってきました。

引き続き、京都大学の現状のご報告と特別講演、「成体脳ニューロン新生の意義と操作」が行われました。演者は、京都大学ウイリス・再生医学科学研究所生命システム研究部門増殖制御システム分野の教授でいらっしゃる影山龍一郎先生でした。

講演の前半で影山先生は附属病院の運営体制、医学部や大学院の教育改革、MD/PhDコースなどについて丁寧な説明され、続いて新しく建設された病棟や現在建設中の病棟、医学部キャンパスの現在の様子などを紹介されました。

出席された先生方や影山先生は、自分が学生時代を過ごした頃と大きく様変わりしているのを感じ、驚いたり昔を懐かしんでおられるように見受けられました。

続く特別講演では、先生の研究テーマである脳ニューロン新生について、学生である私たちに非常にわかりやすく、なおかつ興味深いお話を聞くことができました。

質問、内陸部である米原での竜巻発生について予報はどうなっていたかという質問など質問内容はいろいろ非常に興味深いものでした。

講演終了後には写真会場で写真撮影が行われ、その後懇親会が行われました。懇親会の中では、たくさんの先生方が私たちに話しかけてくださり、現在の大学の様子や、新しくなったカリキュラムなどについて興味を持られ、昔の大学の味を懐かしんでおられました。

最後に、先生方は、マウスの嫌いな水泳をさせるような環境に置いた場合では、前者の方が海馬のニューロン数が増えたとという実験結果が得られたそうです。「好きこそ物の上手なれ」ということわざが海馬の細胞レベルでその通りであるという事を知り、とても感心させられました。

講演終了後には、部屋を移して懇親会が行われました。懇親会の中では参加された先生方が順番に自己紹介をされ、思いのこを前でお話されていました。多くの先生方が現在の大学や学生生活に興味を持っており、学生の私たちにも親しく接して頂いて非常に和やかな雰囲気でした。

最後には、先生方から、この会を通して貴重な話をたくさん聞くことができました。このようにな会にお招きくださったことへの感謝の意をもって島根支部の報告を終わらせていただきます。(文責：6回生 吉平智博)

人事異動

Table with columns: 発令年月日, 氏名, 異動内容. Lists personnel changes including appointments and resignations for various departments.

Table with columns: 発令年月日, 氏名, 異動内容. Lists personnel changes including appointments and resignations for various departments.

会員計報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

敬称略

Table listing deceased members with columns for name, date of death, and other details.

訂正とお詫び

平成30(2018)年度版芝蘭会会員名簿に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫びするとともに、右記のとおり訂正いたします。

○ p143

昭和25専 玉置 光徳【誤】物故会員

【正】〒569-1042 高槻市南平台5-28-2 072-694-9154

- List of names and titles for the editorial board and staff, including 芝蘭会報編集委員会, 委員長, 委員, etc.

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。...

事務局から

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。...